



# 木内あかり

銅版画家／きうちあかり

profile●1995年、千葉市生まれ。2018年、武蔵野美術大学修士課程美術専攻版画コース入学。神山財団芸術支援プログラム奨学生。一般社団法人日本版画協会第86回版画展賞候補。第43回大学版画展出展。「一粒の米」公募展Monte dei Fiori賞受賞。2019年、第17回千葉市芸術文化新人賞奨励賞受賞。千葉市在住。

感じる、心を投影する銅版画  
繊細なタッチのなかに芯の強さを

野に咲く花など植物をモチーフに、繰り返される日常のなかで感じる感情や心の動きを表現する銅版画家・木内あかりさんに、銅版画家としての歩みや創作活動について伺いました。



## 銅版画を始めたのはいつですか？

銅版画とは、銅の板に傷を付けたり腐食させることで作った溝にインクを流し、紙に刷ったものです。私は大学と大学院で版画を学んだのですが、いくつかの技法を習得するなかで銅版が特に難しく、最初は全然うまくいかなかったんです。でも、作品を作っているうちに、銅版の面白さがわかってきて、この技法を介して何か面白いこと、新しいことができないかなと思うようになって。そこから銅版画家を目指すようになりました。

## 子どもの頃から絵を描くことが好きだったのですか？

絵を書くことは小さい頃からずっと好きだったんですが、小学校2年生のときの授業でペンを持つ手の模写がすごく面白くて、そこから模写にはまりました。小学校5年生から高校入学前まで絵画教室に通い、大学への進路を考えたときに美術系に進もうと決めました。

## 木内さんが思う、銅版画の魅力とはなんですか？

作家としての意見になりますが、私は割と細かく描いていくタイプで、そういう細かい線が出しやすいくというのが、銅版画のいいところだと思います。それから、私は自信のなさが絵に表れやすいんですが、自分が出せていない力を、腐食によって間接的に出させてくれる、銅版に救われるということがあるんですね。その想像しなかった表現が線になることも、面白いと思うんです。

以前展示会の場で、作品と一緒に銅版を展示したことがあったんですが、そのときお客さんに銅版の溝を触ってもらったんです。作品を鑑賞する際には、そういうふうにご五感で楽しんだり、アナログな技法ならではのインクの拭き残しや線の滲みなんかも楽しんでもらえればと思います。

## 木内さんの作家としてのセールスポイントはなんですか？

何気ない日々のなかで抱く、忘れたくない感情を絵にとどめておきたいと思い創作しています。朝起きて会社で仕事をして家に帰って少し休んで寝る、その繰り返して忙しく過ごすなかで、埋もれてしまう感情を絵で表現したいんです。

作品を観ることで、ひととき日々の喧騒を忘れる。私の作品を観る時間がそういう時間になり得たら嬉しいなと思います。



## 作品を作るときに心がけていることはありますか？

これは絵に使えるかなとか、今の感情を絵にしたいとか、この人の想いは絵にするとどう感じかなとか、普段からそういう視点で景色や人を見るようにしています。

それから最近は、パワーバランスを意識するようになりました。創作活動はマラソンのようなものなので、エネルギー切れしないように、しっかり寝て食べて運動してパワーをためて創作するようにしています。

## 木内さんが思う、アートの魅力とは何ですか？

予備校でも大学でも思ったことですが、アートに携わると、見え方や考え方が本当にたくさんあることを体感できるんですね。同じものを見て人もそれぞれ感じ方が違う、それを誇張したのがアートなのかなと思います。ただ作品を観てここが好きかと思って楽しむのもいいのですが、アートを通して人の考え方や感じ方はいろいろということを知ることができるのが、アートの大きな魅力だなと感じます。

## 創作活動を続けてきてよかったなと思うのはどんなときですか？

アートの多様性を知ってから、人の作品を認めることで自分の作品も認められるようになったのがよかったことです。それから、いろいろな作品を観てアート活動をしている人やそうでない人もたくさん知り合っ、自分の考えや景色、自分の世界が広がられたことがよかったなと思っています。

## 最近の活動内容を教えてください。

コロナ禍で、2度延期になった個展を来年2月にやっと開催できることになりました。個展以外では、フライヤーやパンフレット、結婚式のウエルカムボードといった印刷物のイラストを手掛けたりしています。

## 今後チャレンジしたいことはありますか？

大学院を卒業して自由に発想できるようになってきたので、今後はもう少し自分の作品を使って今の時代とコラボさせるようなことをやっていけたらなと思っています。例えば、銅版とデジタルを組み合わせて動画を作るとかですね。

あとは、過去に2回やってすごく反響があった黒板アートや、壁画を描くことのような、日常のなかに絵が現れるようなこともやりたいです。それと、版画は本と相性がいいので、本の挿絵なんかもやってみたいですね。

## 作家としての将来の夢は何ですか？

絵は何とかして続けていきたいという気持ちが大前提なんですが、せっかく続けるのだから、社会に役立つようなことができたらと思っています。アートというのは、生きていくうえで絶対に必要というものではないのですが、確実に、人の心を癒したり元気づけたり勇気づけたりするものではあると思うんです。だから、そういう力のある作品を作れたら万々歳かなと思っています。

## 将来美術作家になりたいと思っている人へアドバイスをお願いします。

美術作家というのは、世間的に見ると安定しづらい職業かと思うのですが、それが理由で絵を描くことを止めたり諦めたりして欲しくないなと思います。

続けていくうちに自分に合う技法が見つかることもあるし、今は作品を発信する場もたくさんあるので、まずはやってみて欲しいなと思うんです。絵を描くことが好きだと思えたことが、何より素敵なことなので。

## 千葉市民へメッセージをお願いします。

ぜひ個展にいらしてください。ちょっと疲れちゃったかなと感じている人にこそ、自分の作品を観てもらいたいと思います。格式張らずに散歩がてらふらっと立ち寄って、自分だけの時間を静かに過ごしていただけたらうれしいです。